

# 観光ホスピタリティ クリスタル

事務局 旭川市常盤通1丁目 旭川観光協会 ☎0166-23-0090  
FAX0166-23-1166

発行

北海道観光ボランティア連絡協議会

会長 稲村 健 蔵

印刷所 総 北 海

旭川市工業団地2条1丁目1-23  
☎ (0166) 36-5556

大会は、登別グランドホテルを会場に、二十四日正午から受け付け開始、同一時から開会する。  
主催者挨拶、観光ボランティア功労者をたたえる北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰、来賓挨拶などに引き続き、記念講演を二つ予定している。

初めに登別知里森舎会会員で知里真志保研究家の富樫利一さんが講演する。アイヌ文化の伝承に貢献した知里幸恵の生誕百年を記念して、新しく発見された日記や書簡などの解説作業を通じて判明したことなどを講演する予定。  
もう一人、「北海道おかみの

全道の観光ボランティア仲間が集結する「2002観光ホスピタリティ全道大会」が九月二十四、二十五の二日間、登別市で開催される。登別開催は二度目となり、大会を主管する登別市観光ホスピタリティ推進協議会（栗林和徳会長）などでは、おもてなしの歓迎と大会準備を整えている。



2002年全道大会開催の登別温泉

## 基調講演 「知里幸恵」と「女将さん」

9月24・25日

会」会長を務める「観光ホテル滝乃家」の女将、須賀紀子さんが「おかみさん、頑張る」を語る予定。

記念講演の後は地元、登別市観光ボランティアガイド会事務局長、相澤英男さんが活動報告をする。さらに、次年度開催地・士別市の挨拶、登別温泉中学校生徒の郷土芸能「熊舞」披露で大会を締めくくる。

午後六時から交流会に移り、登別温泉自慢の「鬼おどり」な

### ひつじ年の全道大会は士別市で

次期開催地決定

平成十五年の開催地は、五月の総会で、サフォークランドのまち士別市に決定した。

士別は、羊のまちとして一九六七年から地場産業の育成に務め、一九八二年には市民によるまちづくり団体「サフォーク研究会」が設立され、その後も、西側丘陵地帯に「羊と雲の丘」「羊飼いの家」「世界めん羊館」が開設されて、士別市の観光スポット地帯になっている。

士別はまた、スポーツ合宿や各種スポーツ大会開催をまちづくりのキーワードにしており、全国各地から大勢のスポーツマンが訪れる。

どが登場し、参加者全員で鬼おどりの輪に入って交流を深める趣向になっている。

二日目の恒例のエクスカージョンは、登別市観光ボランティアガイド会が活動範囲にしている地獄谷・大湯沼周辺巡り。足の達者な人には「地獄谷の魅力」が用意されており、登別の観光ガイドぶりを拝見しながらボランティアガイドを改めて実践で学ぶ研修会になる。

士別観光ボランティアガイドの会は、各種スポーツ全国大会、全道大会の参加者をはじめ、士別を訪れる観光客を羊の観光スポット、あるいは白鳥の飛来地に案内している。

平成十五年の干支は「未（ひつじ）年」になることから、士別市内の十二団体で「未来にまちをウルゾー委員会」が組織され、ひつじ年を契機に新たな観光宣伝を展開する。観光ホスピタリティ大会の開催もこうした「サフォークランド士別」を広く紹介するイベントの一つと位置づけられている。

また、平成十五年度には高速道路「道央自動車道」の和寒～士別間の開通も見込まれ、開通記念行事の一環に挙げられている。

# 茶、書、生花、居合い 外航船に“和”を紹介



室蘭市民観光ボランティア  
ガイド協議会

石倉 祥子

平成十三年十月七日、室蘭港には大型豪華客船、「ジャン・ウインドウ号」「リーガル・プリンセス号」がそれぞれ相次いで接岸しました。両船合わせて数千人という異国の人々、その異国のお客様に日本文化を紹介しようと、私共は英会話サーク



茶席でサービスする室蘭の会員

ルの代表者を中心に、当協議会事務局、一般会員、また市港湾部及び観光協会の協力を頂き、数カ月間をかけて準備を進めてきました。日本の伝統的な文化を紹介するチャリ作り、会場作り、全て手作りで出発しました。幸い、現観光協会である旧室蘭駅舎を使用させていただくことが決まり、お茶会コーナー、書道実習コーナー、生花コーナー、また居合いのショーなど観光ボランティアの会員が中心となり、実施することができました。

当日は、英会話サークルの杉岡代表より、女性は着物を着てお客様をお迎えするという提案があり、それぞれ、各コーナーと案内所受け付けなどの担当者は、正装で対応しました。その日、観光案内所がオープンすると同時に大勢のお客様が訪れ、まるで日本ではなく、外国にいるような国際交流の場が出来上がりました。各コーナーは全て手作りであり、前日から準備しました。それぞれのコーナーで会員一人一人が心を込めて対応し、英語を話せる会員は話せない会員を助け、英語が話せなくても心が通じることも知ることができました。初めての試みでしたが異国のお客様には、喜んでいただけたいものと感じております。また、私たちの仲間は、終始和やかな雰囲気の中で、一日があつという間に過ぎていったような気がします。

今年、開港百三十年の古い港町である室蘭、これからも外航客船の入港があるでしょう。室蘭市民観光ボランティアガイド協議会では、従来の活動をより一層充実させてゆくと共に、室蘭を訪れる外国のお客様に、日本文化紹介のイベント等を今後も継続して開催できるよう、その日に向けてまた新たな第一歩を踏み出しました。

## 北大案内も 得意です

### 札幌に観光ボランティアガイド発足

札幌商工会議所観光ボランティアガイドの会が五月に発足し、大都会サッポロの観光ガイドに張り切っている。

観光旅行の形態は、大型観光バスを連ねた団体型から、小グ



大通り公園でガイド活動をアピールする札幌商工会議所観光ボランティアガイドのメンバー

ループ、個人型の旅行に代わってきており、同商工会議所では、観光需要の創出とリピーター確保の狙いもあつて観光ボランティアを募集した。二十代から七十代の約四百四十人が会員になり、ネームプレート、その日のTシャツ、ジャンパーなどで北大コース、都心部コース、周辺の案内に携わっている。

市電に乗ってガイドすることもあり、いかにも札幌らしいガイド活動。始めて間もないことから『出番』はまだ月平均十回程度だが、二人以上の観光客を対象にしており、これから一気に人気が出そう。

北海道観光ボランティア  
会にも加盟し、最もフレッシュな一  
員となった。

問い合わせ先は、  
札幌商工会議所の  
産業部会産業三課  
(札幌市中央区北  
一条西二丁目・北  
海道経済センター  
ビル、電話011-  
231-1112)

# 幹事会が自主的に運営 養成講座や現地研修会



旭川観光ボランティアガイド協議会

三浦 隆一

私たちボランティアガイドの重要な行事である春の現地研修が終わった。今年は企画段階から実行までを、幹事会がつとめ、今後こうした方向性を維持すべきだと思う。また、三日間に及ぶボランティア養成講座が、多彩な講師陣を招いて開催され、多数の人が熱心に聴講し



本格的活動を前に観光スポットを回って現地研修会



観光ボランティアのいろはを学ぶ講習会

た。これも特筆すべきことであつたように思われる。今年の旭川では観光情報センターが開設されたことから、ボランティアの新人募集には特に力が入り、五十名近くの新たな参加があつた。全体では百名を超し、室蘭と肩を並べる組織が出来上がりつつある。

その養成講座の中で西原事務局長がいいことを言っていた。「私たちは、旭岳ロープウェイを東川町のものだとも、黒岳ロープウェイを上川町のものだとも思っています。皆さんもど

んど案内していただく必要のない、うんぬん。いうまでもなく、旭川は北海道のほぼ中心にあり、交通の結節点であり、観光においても重要な位置を占める都市である。

い」。嵐山から見る旭川の街は遠くに大雪連峰の山並みを望み、石狩川が街を貫流し、これぞ旭川を代表する景色との意見では誰しもが一致する。しかし、大雪と石狩川を擁する旭川は、北海道で唯一の街だと言つたなら、上川や愛別や当麻の人たちは「イヤ、おらが街にもあるぞ」と言うだろうか。私たちが旭川のガイドが、常日ごろ何かもどかしい思いをいだいたりするのは、こうしたことと関係している。曰く、旭川は函館や小樽がそうであるような観光都市ではない、うんぬん。

その養成講座の中で西原事務局長がいいことを言っていた。「私たちは、旭岳ロープウェイを東川町のものだとも、黒岳ロープウェイを上川町のものだとも思っています。皆さんもど

そのことに深く思いをめぐらせるなら、観光情報センターの開設は、今の時点で喜ばしいことであつたとしても、道中ほどの感がする。私たちに課せられてる使命はもつと大きい。幸いにして今年には多くの観光ボランティアの仲間を迎えることができた。センター開設と合わせ、ボランティアガイドの原点へと立ち返り、これからも励んでい

## 中国人留学生ら ガイドに大活躍

新設の旭川観光  
情報センター

旭川駅東構内に今年新設された旭川観光情報センターで、旭川教育大学に留学している中国人大学生ら四人「写真」が観光ボランティアガイドと一緒に大活躍している。

同センターは広く道北全域の『玄関口』としての案内をしようとする各地のポスター、パンフレットを取り揃え、インターネットのサービスも観光客に提供している。

台湾、韓国などアジア、英語圏からの観光客が増えており、こうした旅行者にとって、中国語も英語も日本語も話せる留学生は心強い味方。

くことを、皆さんに約束しよう。北彩都の計画が実行に移された暁には、観光情報プラザ（仮称）へと移っていくのだから、それまでにはこの観光情報センターが、私たちの主舞台となる。世界遺産を目指す大雪の山並みにふさわしいボランティア組織となっていくことが、私たちに求められているのだとは、いえないだろうか。



主婦の呉さん、研究生の徐さんの女性二人、男子学生は陳さん、張さんの二人。宿泊の手配、観光地までの交通の案内、中国のお金と円の交換など、外国人の様々な質問に答えて、外国人の様々な質問に答えて、「旭川に聞けば安心」と、評判は口コミで台湾旅行者らに広がっている。





肌寒い日の弘前城前で

サクラの開花には、まだ少し早い三月十五、十六日、私たちのガイドサークル一行十名は、静内観光協会会長・酒井様のご好意でバスを借り上げ、会長さま同行で弘前市へお伺いしてきました。

なぜ、弘前市へ：と思われるかと。

私たちの会では、昨年から本州の「さくら」の名所を抱えている市を訪れて研修をと言う話が持ち上がったのですが、なかなか行動に移せませんでした。静内町の「さくらまつり」の前に是非にということになり、三宅会長が北海道観光ボランティア協議会へお伺いを致したところ、稲村会長様より即座に、弘前市へと言うお言葉をいただいたとのことで、何のためらいもなく、行動の開始となりました。



しずない観光ガイドサークル 田中 純子

三月十五日午後弘前市へ着き、生憎の雨に見舞われての表敬訪問となりましたが、観光協会会長様はじめ市の観光課の方、観光ボランティアの方々の温かい歓迎を頂き感謝の気持ちでいっぱいでした。なにしろ計画から実行まで一カ月余りという性急なことでしたので、弘前市の方には大変ご迷惑をお掛けしたことと思います。

当日は弘前城の案内を予定されていたとのことでしたが、雨のため、ボランティアでは案内

とを思うと雨・様様とも言うのでしようか。

翌日、十六日は肌寒い天候でしたが、良いお天気で、弘前城公園内をご案内頂きました。

弘前城跡では、樹齢三百年とも五百年とも言われるシダレサクラの木々や公園内の樹木に、市の予算が八千万円も計上されていることをお聞きし、いかに自然を大事にしているかを痛切に感じてきました。

また、ガイドさんのお話か

はしていかないとお話でしたが、世界遺産「白神山地ビジターセンター」へご案内頂きました。

恥ずかしいことですが、私は白神山地が世界遺産に指定されていることすら知らずにおりました。

ビジターセンターは、国・県の関係行政機関の管理下にあるだけに、すばらしい資料館で、自然のスケールの偉大さに魅了されました。

雨が降っていないければビジターセンターには行かなかったこと

## 素晴らしい資料館 白神山地ビジターセンター サクラに市が八千万円

### 弘前市視察研修

なられることには羨ましささえ感じました。

また、市の観光課が、観光協会・観光ガイドサークルの窓口となり、官・民一体の組織になっていることを伺い、理想的な観光行政に、さすがに歴史の違いを痛切に感じました。

今度は是非、サクラの満開のときに弘前市を訪れたいと思います。

ら、案内は無償とのことからエージェントの要請が来るようですが、この方面からの要請には応じないことにしているとお話でした。しかし、有償を目的に新たなサークルが出来ていて、会員さんが多少流れていっていることに頭を悩ませていることもあるように見受けました。

弘前さんは、会員の中に、大学の教授を終えられた人、国鉄を退職された人、弘前の魅力に移り住んだ人、などと専門の知識に詳しい人が豊富なおいでに

また、大会の基調講演が「観光ホスピタリティについて」をテーマにしており、ホテル西洋銀座チーフパソナルセクレタリー・多(おおの)桃子さんが講演する。

豪華客船での体験 観光ボランティアの功労表彰などを楽しみに全道の観光ボランティアの皆さんもぜひ参加下さい。大会の詳しい問い合わせは北海道観光連盟(〇一一一三三二一〇九四一)。

これまで全道大会では、「花と緑の北海道運動」の優秀団体が会長表彰されてきたが、今年から「観光ボランティア活動」の功労表彰が新設された。

また、大会の基調講演が「観光ホスピタリティについて」をテーマにしており、ホテル西洋銀座チーフパソナルセクレタリー・多(おおの)桃子さんが講演する。

9月6日  
北海道観光大会



## 留萌港の豪華 客船『飛鳥』